

## 自主防災活動に参加しましょう

私たちは、災害の発生を防止することはできませんが、普段からの備えにより、災害による被害を少しでも減らすことはできるはずです。

しかし、大規模な災害が発生した場合には、市民一人ひとりの力でできることはおのずと限界があり、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災の組織的な体制のもとで、地域の皆さんが協力し合っ、災害に立ち向かうことが重要になります。

このように、地域社会の中で防災という共通の目的を持って結成されているのが、自主防災組織です。現在、市においては、地域の区組織を活用した自主防災組織が結成されています。



## 災害時要援護者への支援

Support for Those Who Need Guidance and Assistance in Disaster

向遭遇灾难时需要援助的人支援

สถานที่ สนับสนุนที่สำคัญในการให้ความช่วยเหลือภัยพิบัติ

### ■ 高齢者・乳幼児・病気の方には

- 予め災害時の支援者を決めておき、できるだけ複数の人で援助しましょう。
- 高齢者や病人は、状況に応じて「声を掛けて励ます」「手をそえる」「肩を貸す」などの援助をしましょう。
- 乳児や歩行が困難な人には、おんぶひもで背負うなどの援助をしましょう。



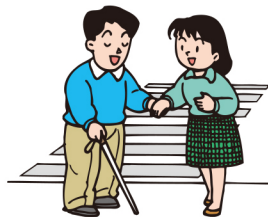
### ■ 車いすを利用している方には

- 必ず誰か付き添い援助しましょう。
- 階段では2人以上で援助し、上がる時は前向きで、下がる時は後ろ向きにして恐怖感を与えないようにしましょう。
- 車いすの押し方や避難の方法は、本人や家族と相談しましょう。



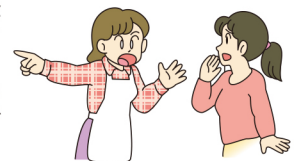
### ■ 目の不自由な方には

- 誘導をする時は、肩や腕を貸し、半歩前を歩きましょう。
- 誘導をしている時は、常に周りの状況を伝えましょう。
- 方向や距離を伝える時は、「右に曲がって20mくらい」など具体的に伝えましょう。



### ■ 耳の不自由な方には

- 話す時は近くに寄り、顔を向けて、口を大きくはっきり動かし伝えましょう。
- 口頭で伝わりにくい時は筆談で行い、書く物が無い時は、手のひらに指で書き伝えましょう。
- 救助の際は、懐中電灯で照らすなどして伝えましょう。



### ■ 知的障がいのある方には

- あわてないように優しい声で話しかけ、落ち着かせましょう。
- 分かりやすく簡単な言葉を使い、話は短く切って話しましょう。



### ■ 外国人の方には

- 言葉が通じない時は、身振り手振りやイラストなどで伝え、道順などは、手で方向を示し伝えましょう。
- 災害時に外国人を見掛けたら、孤立させないように進んで声を掛けましょう。  
(日本語でもかまいません)

